

『広島県病院事業経営計画（平成29年度～令和2年度）』の取組状況
に係る広島県病院経営外部評価委員会の評価報告書（案）
【令和元年度の評価】

令和2年12月 日
広島県病院経営外部評価委員会
委員長 谷田 一久

1 広島県病院経営外部評価委員会

広島県病院経営外部評価委員会は、「広島県病院事業経営計画（以下「経営計画」という。）」の取組状況に係る点検・評価等を行う外部組織として平成22年5月に設置され、今年度は11年目になります。

本委員会は医療、公立病院運営、経営等に精通した各分野の専門家が委員として構成され、公正に、しかも専門的な観点から広島県病院事業を評価しようとするものです。

令和元年度の経営計画の取組状況について、今年度は2回（7月、10月）にかけて議論し、次のとおり取りまとめましたので、ここに報告いたします。

2 評価結果の総括

令和元年度は、平成29年3月に策定した「第6次経営計画」の3年目に当たり、計画の実現に向けて、その進捗を管理する上で非常に重要な年度です。

第6次経営計画では、「医療機能の強化」、「人材育成機能の維持」、「患者満足度の向上」、「経営基盤の強化」の4つの領域を取組の柱として定め、それぞれの領域については、多岐にわたって詳細な具体的取組項目が定められました。そのうえで各項目について目標となる指標を設定し、進捗状況を把握しながら、その達成に向けた具体的活動についての報告がありました。

県立広島病院は、広島県全域を視野に入れた基幹病院（三次機能病院）として、救急医療、脳心臓血管医療、育成医療、がん医療の領域を中心に、高度な医療提供機能を維持強化するとともに、臨床研修指定病院として、医師など県下で活躍する医療人材の育成を図り、医師が不足する中山間地域における地域医療の確保に取り組んでいることを確認しました。また、基幹災害拠点病院として災害医療にも貢献するなど、いずれの取組実績をみても、県立病院らしく、市町の枠を超えて広域を対象とし、公共性を発揮しつつ、経済性を求めるという公営企業としての社会的な役割を果たしているものと評価しました。

県立安芸津病院は、平成30年7月豪雨災害によって深刻な被害を受けましたが、各方面の尽力を得て復旧がなされたとの報告がありました。その上で、県内で進められている地域包括ケアシステムの構築に向け、拠点病院のモデルとなるべく、さまざまな取組がなされているところです。新たな専門外来の設置やアウトリーチクリニックの開始など、地域の医療水準向上の取組を精力的に行う一方で、少子高齢化・人口減少が進む地域にあって、予防医療の強化や在宅療養支援の充実など、地域包括ケアシステムを充実する取組がなされており、モデル事業としての取組は進行しているものとして高く評価しました。

一方で、事業収支の面においては、両病院を合わせた事業全体の収支が平成21年度以来となる2億5千万円余の経常赤字を計上しました。第四四半期にはCOVID-19への対応という新たな課題に直面することとなり、非常に厳しい経営状況となっています。県立病院として感染症への対応が求められるところであり、県内の感染症対策との整合性を保ちながらも、引き続き効果的かつ効率的な経営がなされることを期待します。

3 評価結果

(1) 評価基準と評価方法

経営計画に基づき令和元年度に取り組んだ事項について、次の基準により評価を行いました。

評価基準		評価の考え方
評価	区分	
◎	計画どおり概ね順調である。	計画の達成に向けた、具体的成果がある。又は目標を達成した。
○	ほぼ順調である。	計画に対して具体的に取組んでおり、一定の成果が認められる。
△	やや遅れている。	計画に対する取組はあるものの、まだ成果に現れていない。取組が不十分。
×	かなり遅れている。	計画に対して取組が行われているとは言えない。消極的。

(2) 各病院の評価結果

①-1 県立広島病院の評価

経営計画に係る取組状況については、令和元年度は16項目(うち評価対象は15項目)の取組のうち、『◎(計画どおり概ね順調である。)]と評価した項目は●項目となりました。

経営計画において重点取組項目として設定した、救急医療、脳心臓血管医療、成育医療、がん医療の強化については、概ね計画通りか計画を上回る進捗にあると評価しました。具体的には内科救急診療部の設置による救急受入の拡充、呼吸器センター・消化器センターなどの専門医療センターによる高度医療の継続的取組、がんゲノム医療の拡充など、広島県の高度専門医療を担う基幹病院としての機能が拡充されている点を高く評価します。

また、そのような機能を発揮するには、地域の医療機関との連携の強化は不可欠ですが、患者紹介の実績や地域の開業医の満足度の高さから、地域の医療提供体制の効率的な運用に貢献しているものと評価します。

全体としては、目標指標27項目のうち16項目が目標を達成しており、未達成項目が増加したとは言え、全体としては高い水準にあると評価します。

収支面においては、平成20年度以来の経常赤字を計上しました。運転資金も大幅に減少するなか、長期化するCOVID-19への対応という新たな課題が加わり、収支面でのさらなる悪化は回避できないものと判断します。

しかしながら、長期化するCOVID-19の影響は多くの医療機関に及んでおり、県立病院だけの問題ではなく、地域の医療提供体制全体の問題であると認識します。感染症対策によって滞った従来からの取組を前に進めるにあたり、地域の医療機関との役割分担の強化や医療機能の再構築が必要であり、そこにこそ、県立病院の存在意義を見出せるものと思います。

そして、そのような県立病院の姿勢や具体的な取組を通じて、地域医療構想のけん引役としての役割を果たせるものと期待します。

なお、取組方針ごとの委員会評価意見は別紙「評価表」に記載のとおりです。

①-2 評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	R元 ()はH30
評価結果『◎』とした項目	__項目(5)
評価結果『○』とした項目	__項目(9)
評価結果『△』とした項目	__項目(1)
評価結果『×』とした項目	__項目(0)
合計	15項目(15)

イ 取組方針ごとの評価

番号	取組方針	自己評価	委員会評価
1 医療機能の強化 ()はH30			
1	救急医療の強化	◎	◎(◎)
2	脳心臓血管医療の強化	○	○(○)
3	成育医療の強化	○	○(○)
4	がん医療の強化	◎	◎(○)
5	医療安全の確保	○	○(◎)
6	医療の質の向上	○	__ (○)
7	危機管理対応力の強化	◎	◎(◎)
8	地域連携の強化	◎	◎(○)
2 人材育成機能の維持			
9	医療人材の育成・確保	○	○(◎)
3 患者満足度の向上			
10	患者満足度の向上・広報の充実	○	○(○)
11	業務改善	◎	◎(◎)
4 経営基盤の強化			
12	経営力の強化	△	△(○)
13	増収対策	○	○(○)
14	費用合理化対策	△	△(△)
5 決算、目標指標			
15	決算の状況	△	△(○)
16	目標指標の達成状況	—	—

総合評価	○(○)
------	------

②-1 県立安芸津病院の評価

経営計画に係る取組状況については、令和元年度は13項目（うち評価対象は12項目）の取組のうち、『◎（計画どおり概ね順調である。）』と評価した項目は、●項目となりました。

令和元年度は、少子高齢化が進行し、人口減少が加速する地域において、限られた医療資源の中で、新たな専門外来（骨粗鬆症外来）の設置や、アウトリークリニックの開始など、地域に必要とされる専門医療の充実を図った点を高く評価します。

また、訪問看護、地域のケアマネジャーとの定例会、患者の退院指導から退院後の継続支援、地域イベントでの健康相談の実施や啓発活動など、地域に根差した取組を継続して実施しており、所在地の自治体が主体となる地域包括ケアシステムの構築を支援するモデルとなるための取組を高く評価します。

目標指標については22項目中16項目が目標を達成し、前年度から増加しましたが、手術件数や内視鏡検査件数が未達成となっています。必要な医療が地域で受けられる体制のあり方について、自治体等との不断の協議が必要であると指摘します。

収支面をみると、入院患者数の増加による医業収益の増加により、経常収支は前年度から改善していますが、依然として赤字は継続しています。引き続き医療機能の発揮による利用者の拡大がなされることを求めます。併せて、費用の合理化として、不適当経費^{※1}や困難経費^{※2}の特定にも努めていただくことを期待します。

COVID-19 への対応という新たな行政課題や経営課題に直面していますが、県内の他の中山間地域においても同様の事態が起こっているものと推察されます。安芸津病院は地域包括ケアシステムの構築を支援する事業モデルとして、感染症への対応を含め、県内の同様な地域の先行事例となつていただくことを期待します。

なお、取組方針ごとの委員会評価意見は別紙「評価表」に記載のとおりです。

※1 地方公営企業法第17条の2第1項第1号に該当する経費

※2 地方公営企業法第17条の2第1項第2号に該当する経費

②-2 評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	R元 ()はH30
評価結果『◎』とした項目	項目 (2)
評価結果『○』とした項目	項目 (8)
評価結果『△』とした項目	項目 (2)
評価結果『×』とした項目	項目 (0)
合計	12項目 (12)

イ 取組方針ごとの評価

番号	取組方針	自己評価	委員会評価
1 医療機能の強化 ()はH30			
1	専門医療・政策医療	△	— (△)
2	地域包括ケアシステム構築への貢献	○	○ (○)
3	医療安全の確保	○	○ (○)
4	医療の質の向上	○	○ (○)
5	危機管理対応力の強化	○	○ (○)
2 人材育成機能の維持			
6	医療人材の育成・確保	○	○ (○)
3 患者満足度の向上			
7	患者満足度の向上・広報の充実	○	◎ (◎)
8	業務改善	○	— (◎)
4 経営基盤の強化			
9	経営力の強化	△	○ (○)
10	増収対策	△	— (○)
11	費用合理化対策	△	○ (○)
5 決算、目標指標			
12	決算の状況	△	△ (△)
13	目標指標の達成状況	—	—
総合評価			○ (○)

4 広島県病院経営外部評価委員一覧

(敬称略)

区分	氏名	備考(職名等)
委員長	谷田 一久	株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表取締役 鶴見大学公共医科学研究センター 客員研究員
副委員長	大毛 宏喜	広島大学病院 副病院長(経費改善担当)
委員	木倉 敬之	慶應義塾大学 非常勤講師(元厚生労働省保険局長)
委員	中西 敏夫	一般社団法人広島県医師会 常任理事
委員	平谷 優子	ひかり総合法律事務所 弁護士
委員	吉村 知子	株式会社中国新聞社 読者広報部長
委員	和田 頼知	和田公認会計士事務所 所長

5 広島県病院経営外部評価委員会 令和2年度議事一覧

○第1回〔令和2年7月3日(金) 於: 県立病院課(オンライン開催)〕

(1) 令和元年度経営計画の取組状況について

○第2回〔令和2年10月9日(金) 於: 広島がん高精度放射線治療センター〕

(1) 令和元年度経営計画の取組状況の評価取りまとめについて